



「あっさりした甘口」どぶろく製造開始

酒造免許の審査にあたり、最低製造数量の要件を適用しないこととする構造改革特別区域計画の認定を国から受けて以降、酒造免許交付第1号となった西谷弘之さん（別宮、民宿経営）が4月18日、どぶろく製造を民宿「翠山荘」で始めました。

西谷さんは、昨年、どぶろくなどをテーマにした県立工業技術センターの講演を聞き、酒造会社に勤めていた経験を生かして自分にも造れるのではないかと考え、市に特区の認定について働きかけました。

この日は、自ら製造したこうじ、水、自家製米、酵母などを混ぜ合わせる「添え仕込み」と呼ばれる作業を行いました。どぶろくは、5月中ごろには完成し、6月から本格的に販売されるそうです。西谷さんは「あっさりした甘口で、女性も飲みやすい味に仕上げたい」と話していました。

まちの話題

市道高柳小佐線が開通

平成16年の台風23号により、工事中に大規模な地すべり被害が発生した市道高柳小佐線（全長2.1キロ、総事業費約10億3千万円）が開通し、4月13日に完成報告会が行われました。

本道路は、国道9号と小佐地域を結び、3月に開通した県道十戸養父線「珍坂トンネル」を経由して豊岡市へ連絡し、国道312号の代替路線としての役割を果たすとともに、但馬長寿の郷や但馬全天候運動場などへのアクセス道路にもなります。

また、災害で崩落した部分には、全長125メートルの橋が架けられ、災害の再発や記憶の風化を防ぐために住民の皆さんが「とわばし」と命名しました。

式典では、工事の概要報告やテープカットの後、関係者が渡り初めを行って開通を祝いました。



開通を祝ってテープカットする梅谷市長ら

企業誘致第1号「ウィザス ナビ高校」開校

株式会社が運営する広域通信単位制高等学校「ウィザスナビ高等学校」（㈱ウィザスの子会社㈱ナビが運営）の開校式典が4月6日、大谷の同校で行われ、地元住民や関係者が開校を祝いました。

市は、平成18年8月、教育サービス会社「株式会社ウィザス」（大阪市）から旧大谷小学校を利用して通信制高等学校を開校したいとの打診を受け、同年12月には誘致に関する協定書に調印。翌年3月には、株式会社による学校の設置を行うための構造改革特別区域計画の認定を国から受けるなど、開校に向けて取り組んできました。

同校には、約880人が入学。生徒は、インターネットを使って授業を受け、年1回、同校を訪れて地域で農林業などを体験するスクーリングを実施します。



開校したウィザス ナビ高等学校